

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	H18年12月開設。同センター内にサテライト特養、ショートステイ、訪問介護ステーション併設。こぼし園初の小規模として地域啓発等を行っています。住み慣れた地域でその人らしい生活が維持できるように柔軟なサービスを提供し、暮らしを支えていけるように取り組んでいます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 美沢	管理者	佐藤佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	1人	1人	1人	1人	4人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの認知度が低いため、事業所の役割について情報を発信していく。 ・地域のニーズの分析、声を共有し、情報も見える化を行っていく。 ・ご利用者の思いや生活状況をきちんと理解し、一緒に考え、ケアの提供を行う。 ・虐待・身体拘束・個人情報保護・プライバシーについての勉強会を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちなね」を開催し、積極的な啓発活動を始めているが、参加者がまだ少なく、継続的な取り組みが必要。 ・職場研修（勉強会）や外部研修の参加にて各職員のスキルアップに繋がっている。しかし研修後の報告（学習会）に活かしきれておらず報告書のみ情報共有が多くなってしまっている。 ・詳細なケース記載を心がけ、情報共有も昨年以上に出来ている。利用者の思いや不安等の把握もしっかり傾聴等をしっかり行っているも、時間にゆとりないことも多く、十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在「まちなね」（栖吉・川崎・永田地区での介護教室）を定期的に開催しているが、美沢地区では開催できていないため、今後の課題である。また四郎丸コミセン独自のお茶のみはあるが、そこには参加は出来ておらず、コミセンでの行事への参加のみ行っている。 ・センターでは介護教室を実施するためには場所が確保できない。よって少人数の開催であれば（食事会等）実施できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美沢地区（センター周辺3丁目・4丁目を中心に）での「まちなね」や、事業所での少人数な介護教室の開催等を検討していく（地域でニーズや意見を取り入れながら内容を検討していく）。また、広報にも「まちなね」の情報を盛り込み、地域に回覧し、啓発活動に繋げていく。 ・職場研修（勉強会）などの報告がペーパーのみになりがちのため、伝達研修のやり方を工夫する。また、実技等の研修も取り入れた新たな工夫を検討していく。 ・ケース記録を書く際には件名やタイトルをつけ、ケース記録を開いた時、一目で内容が分かるような工夫行っていく。 ・ご利用者の生活状況がわかるように、情報収集したものを整理し、日々のケアに結びつけ、住み慣れた自宅での生活のサポートを行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な回覧と行事等で介護相談を行っている旨を必ず記載する。 ・行事等で地域の方が来られた際、施設の説明をする。 ・この建物は何なのか地域の方にわかるような表示をする。 ・環境美化にも配慮し、花等を置き少しでも入りやすい事業所にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターは分かるが中身は分からない。→センター来所時等施設内見学を実施し、説明を行った。 ・行事の際の広報には介護相談の記載をしているがまだ回覧板の活用には至らず。 ・満足度調査の説明にもあったが入口のドアを手動から自動に切り替えたことで入りやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このセンターがどんな建物なのか、さりげなく伝える工夫が必要かと思われる。（例えば看板やのぼりなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看板の設置以外に、環境美化（花や花壇の設置など）やイルミネーション、ウッドデッキの活用などで入りやすい事業所の雰囲気作りに向けた工夫を行っていく。 ・コミュニティセンターにも行事のポスターや広報の掲示を依頼し、また美沢地区に回覧する等周知できるやり方を考えていく。 ・駐車スペース小さく、入りにくい一因になっている為、改善に向けた意見

				交換等行っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口であることをわかって頂くような工夫をした回覧を作成し定期的に地域で回覧して頂く。 ・啓発活動や意見交換等を実施し少しでも地域との連携が取れるよう、些細なことでも相談できる体制であることを地域に向け発信していく。 ・地域の方がいつでも来られるような茶話会の実施。 ・近隣のコミセンを活用し情報を発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報の提示について、コミセンの利用を中心に行ってきたが見にくいと言った意見があった。→今後回覧活用予定。 ・場所自体は分かるが内容の把握までは至らず。 ・「まちなね」開催にて少しずつ地域との関わりが持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このセンターの存在はわかっているけど、いざ自分が必要な立場にならないと、センターに行こうというきっかけに繋がらないのが現状である。 ・地域のクリーン作戦に年2回参加し、関わりがあることはとてもよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の行事やコミュニティセンターの企画などに積極的に参加していく。 ・クリーン作戦時、広報やセンターの案内などを配布し、「地域の相談窓口」の役割をしている事業所であることを紹介していく（わかりやすいパンフレットの作成する）。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事にも積極的に参加し情報の共有を行っていく。 ・民生委員との関わり不足、定期的に関わりを持ち情報共有していく。 ・運営推進会議を通し近隣の民生委員にも参加して頂き、情報交換行い関わりを持つ。 ・行事やイベントだけでなく、日常的に気軽な外出ができる取組みがあるとよい。 ・情報共有（地域、美沢）のため地域に出向いた活動が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に行事参加し情報共有を行った。（出来ない時もあった） ・なかなか地域の方の情報把握まではできない。 ・別地区で孤独死の事案があった。→外出、訪問時視野を広げ情報を得る。 ・会議後、課題整理し評価を行いある程度周知できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員が毎月1回定例会を行っているので、その場へセンターから出向いてサービス内容の説明をするとわかりやすいと思われる。（一般の方にはかなりわかりにくいサービスである） ・町内会の会合に使われている会議室が地域の方に馴染みがあるので、説明会等を行うならば、その場所を借りることで参加しやすいと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員と日常的な情報共有を図り、日々の関係作りを強化していく。（「まちなね」を有効に活用していく。また、広報に「まちなね」の活動報告や、次回の案内などを記載し、回覧板などを活用し、地域へ情報公開していきながら、町内や民生委員との連携の場としていく） ・送迎時や訪問時など、ご利用者以外の周辺住民の見守りを意識しながら「地域の見守り体制」の一員として意識づけしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動の中に事業所が相談窓口であることを内容に取り入れていき、少しでも周知して頂けるよう回覧にて発信。 ・地域住民が気軽にセンターに来られるような取り組みの検討。 ・地域への情報発信、公開と地域からの情報提供で止まっている。その情報をどう活かしていくか考える必要あり。 ・会談の内容等、提起された内容で取り入れられるものは時間を掛けず行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題整理し評価を行っていく必要あり。 ・地域の情報が少ない。→民生委員、包括との情報交換を行う。 ・個人情報もあり、なかなか事例検討を行なえないことが現状。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターが相談窓口も設けているが、身近にあるとあえず相談できる窓口であることを理解してもらえる工夫が必要と思われる。その後、必要性を評価し、地域包括支援センターへつなげれば、地域の安心になると思う。 ・地域の方々や地域の周辺他事業所と意見交換を出来る場があることが、とても有意義なことであると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括センターとの連携を強化し、相談窓口であることを広報など使いながら、情報発信していく。 ・地域住民が気軽にセンターに来られるように環境美化や、駐車スペースの工夫を行っていく。 ・運営推進会議を通して、事業所や地域の課題の意見交換をしながら、共に考えていく場作りしていく。 ・地域ではこんな問題がある、困っていることがある等運営推進会議の場で話を聞き、地域の情報を把握していく。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とセンターと一緒に防災について学ぶ機会を持ち、一緒に防災する意識を持つ。 ・美沢地区での防災訓練時、防災計画を説明し周知していく。 ・行事等で防災計画や防災訓練の必要性等説明し報告する。 ・定期的な回覧によって事業所内での情報を発信し、参加して頂ける取り組みには参加を募る。 ・センターでの防災計画の情報提供はいろいろな機会を通し発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と一緒に防災訓練を行い連携が図れ、防災計画等情報発信できた。 ・災害によって対応が異なるため災害時、事業所は何が出来るのか回覧にて提示する必要あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターは福祉避難所の提携は結んでいないが、災害の種類によっては一時的な受け入れが出来る。そのような役割があることを地域に向けて広報しておけば、地域の方も安心につながると思われる。 ・地域包括支援センターは災害が起きている最中には何もできないため（その後のフォローはできる）日頃からセンターと近隣の方との関係作りがとても大事になってくるとと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の種類（地震など）によっては、一時的にセンターに避難できること（福祉避難所としても）を回覧等で地域の人に知ってもらう。 ・地域の防災関係の研修に参加する機会を通しスキルアップに努めていく。また、ミーティング等を使い、学んだ知識を共有していく。 ・町内会との防災意識を共有していくためにも、事業所内外の防災訓練への参加を試み、意識の共存に努めていく（防災訓練の案内は町内回覧を活用していく） ・町内会長と相談しながら防災計画・訓練を行っていく（訓練の曜日も検討していく）。
----------------------------	---	--	---	---